

算命学中庸

【初年】 50 回目

50 回目の授業はこのページからです。

授業科目 【人体図の観方】 ②

・【初年】 50 回目【人体図の観方②】 01

□ 人体図の観方 ② (じんたいずのみかた)

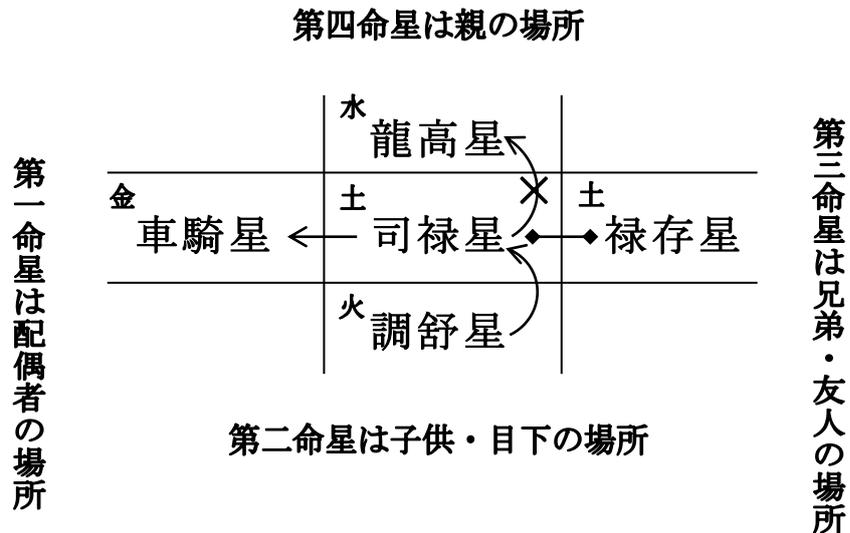
主星の場所と配偶者の場所における『相生』『相剋』『比和』
の関係を5つの^{パターン}型に分類しました。

その説明をします。

参考：おける〔動作・作用の行われる場所などを示す〕

参考：関係〔互いに無視することができない結びつき〕

宿命（1）A子 陽占宿命というのは人体図のことです。



人体図は『相生』『相剋』『比和』があります。

【人体図の観方①】 「A子さんは結婚を考えていますが」
を前提に人体図で〔主星〕と〔配偶者の場所〕の『生剋比』
そして、親子・夫婦の関係について説明しました。

【人体図の観方②】 授業でも——まずはA子さんの人体図を
基に話しを進めます。

それゆえ前回【人体図の観方①】と重複する箇所もあります。
ご了承ください。

☞〔主星の場所〕と〔配偶者の場所〕における『相生』
『相剋』『比和』の相互関係を、①番から⑤番まで書きました。

『相生』と『相剋』は、矢印の向きが「二方向」あります。

『比和』を加えますと、全部で5種類のパターンができます。

人体図『相生』『相剋』『比和』の相互関係を見るには
「十大主星」を五行になおします。

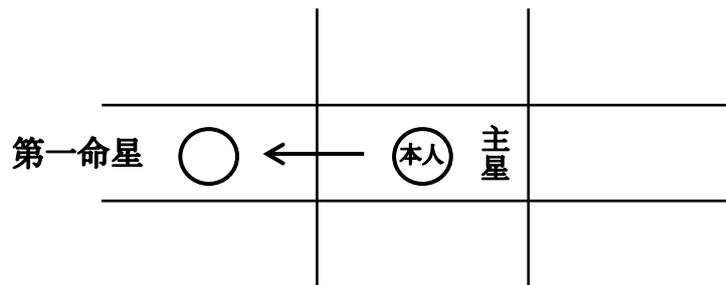
参考：相互関係〔二つのものの、互いに相手に対する関係〕

参考：なおす〔違った観点・方法で新たな位置づけをする〕

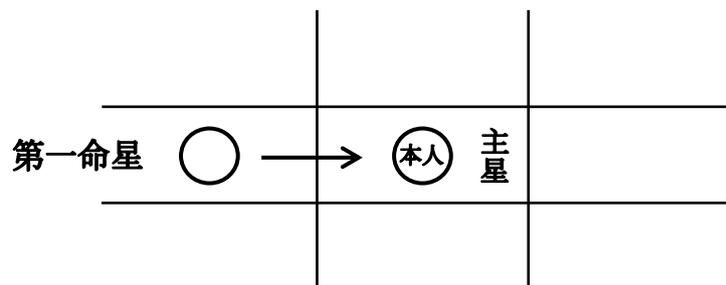
- ①型〔主星が配偶者を生じて行く関係〕
- ②型〔配偶者が主星を生じて来る関係〕
- ③型〔主星が配偶者を剋して行く関係〕
- ④型〔配偶者が主星を剋して来る関係〕
- ⑤型〔主星と配偶者が比和になる関係〕

04 頁から①～⑤の型をご説明していきます。

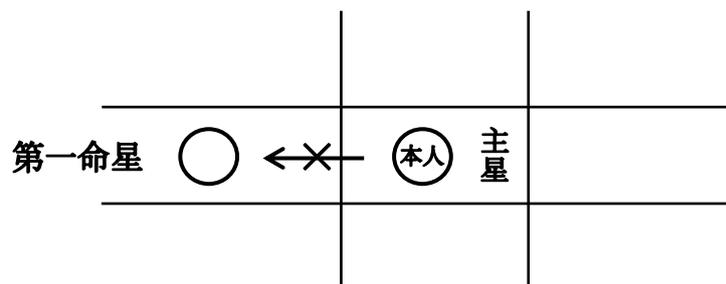
①型〔主星が配偶者を生じる〕



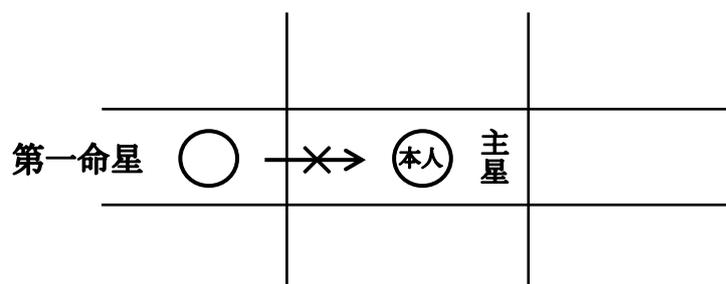
②型〔配偶者が主星を生じる〕



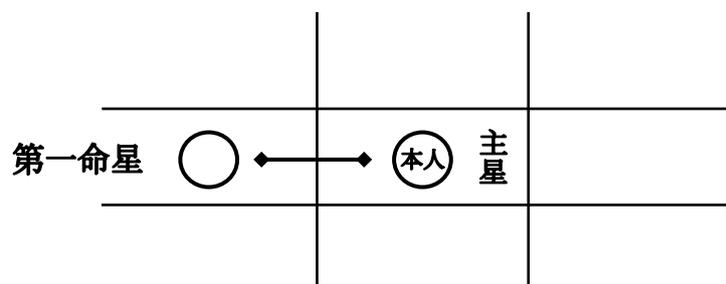
③型〔主星が配偶者を剋す〕



④型〔配偶者が主星を剋す〕



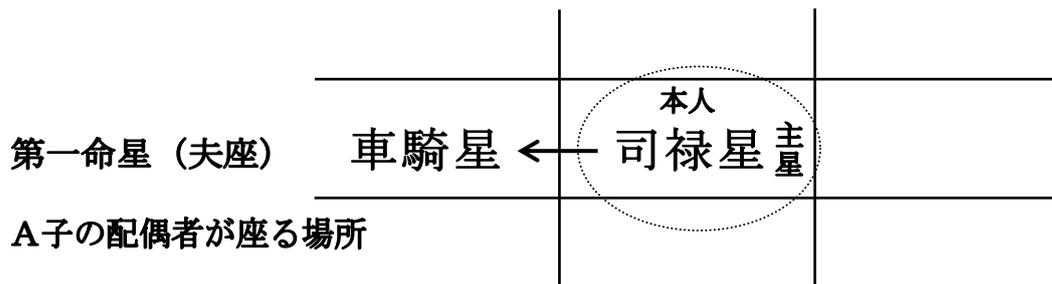
⑤型〔主星と配偶者が比和〕



☞ まずはA子さんの人体図を^{もと}基に話しを進めます。

♥A子さんは結婚を考えていますが、どのような男性が自分に相応しいのか……考えています。

宿命（2）A子



A子さんが結婚すれば、彼女の夫は第一命星に座ることになります。A子さんに限りません。どなたでもおなじです。

〔たとえば〕山田さんという男性が結婚すると、妻は夫の人体図の第一命星（妻座）に座ることになります。

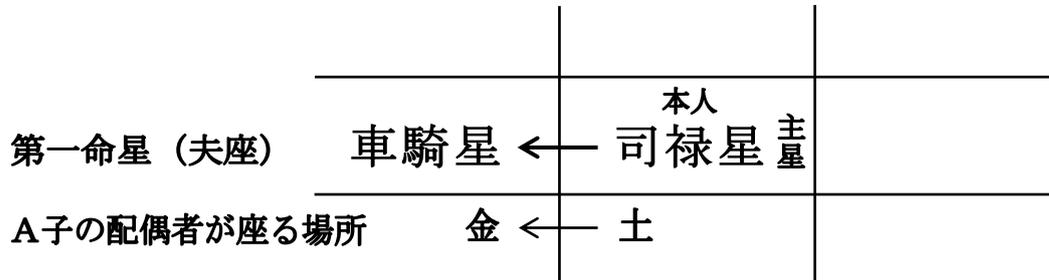
A子さんの主星は^{しろくせい}司禄星（土性）です。

第一命星には^{しゃきせい}車騎星（金性）があります

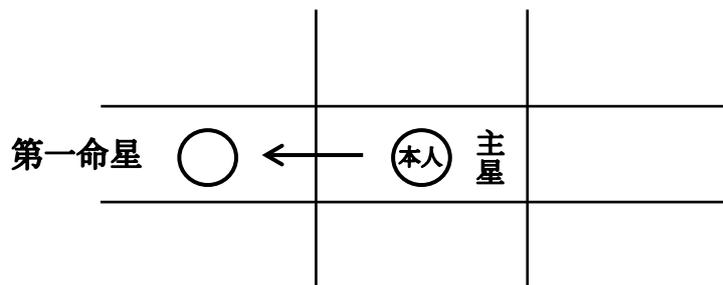
彼女の人体図は（土→金）と、本人が配偶者を生じる姿になっていますから、A子さんは〔夫を助けるとか、夫の面倒をみてあげたい〕そういう気持ちを抱くのはふつうといえます。

☞ そこで……考えていただきたいのです。

宿命（3）A子



①型〔主星が配偶者を生じる〕



宿命（3）A子の人体図は ①型〔主星が配偶者を生じる〕

に相当します。参考：相当そうとう〔ほかのものとちょうど釣合がとれること〕

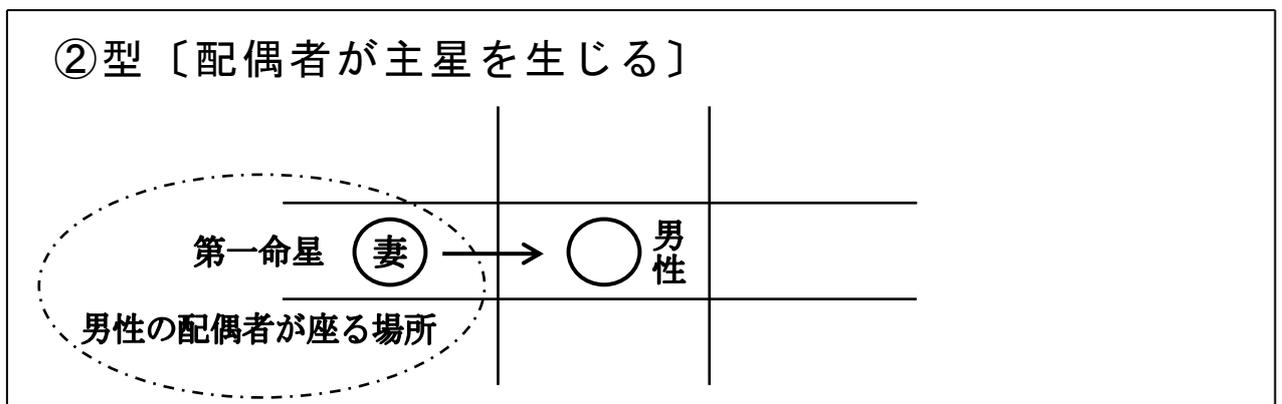
A子さんの主星・司禄星が（土→金）と配偶者の車騎星を生じている人体図です。

人体図は私が〔夫を助ける・夫の面倒を見るのは当たり前〕と書いてあります。

彼女が夫を助けて、夫が喜んでくれると、彼女の宿命は満足です。つまりA子さんが満足します。

彼女の相生の箇所は（土→金）ですから〔夫を助けてあげたい・ささえてあげたい〕と書いてある人体図です。

男性の人体図は②型になります。参考：箇所〔特定のところ〕



主星の男性は第一命星（妻座）から生じられています。男性は〔妻からささえてもらいたい・助けてもらいたい〕とおもっています。

男性の人体図の第一命星に座ったA子は〔夫を助けて当たり前〕と思っていますから、2人の夫婦関係は円滑です。

②型の男性は〔妻に助けてもらって当たり前〕とおもう人です。他人が聞いたら“だらしのない男だ”と顔を顰めるかもしれませんが、〔他人がどう言おうと、僕は妻に助けてもらいたい〕そういう男性です。

☞ [わたしが助けてあげる] 夫をいづく慈しむやさしい妻といえませんが、(土→金)(土→金)と絶えず夫を助けて、面倒をみていたら、結果的に相手をそくばく束縛することにつながります。言い換えれば、A子さんは「夫を束縛したい」という女性といえます。

『相生』はこのような意味も含まれるわけです。

一方が「相手を束縛したい」とおもっていて、一方は「相手に束縛されたい」と思っているのならピッタリ合います。

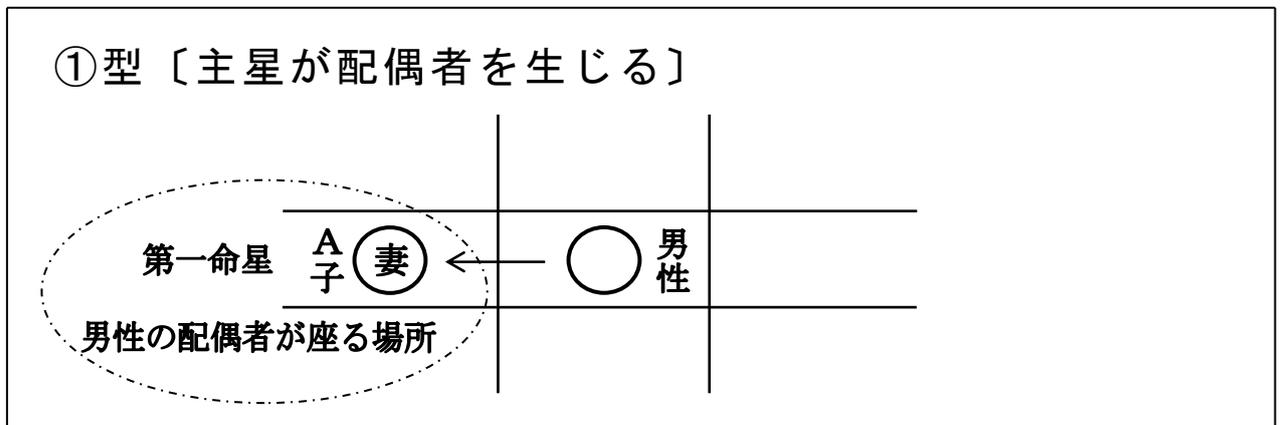
このように考えますと…… A子さんにとって1番あいしょう相性のよい男性は②型になります。

「私は夫婦の関係はそうこく相剋がいいわ」という女性とか、「僕はひわ比和の友達みたいな夫婦がいい」そういう人達からすれば、A子さんのように一生懸命に夫の面倒をみて、夫を束縛しようとするような女性というのは、**③型 ④型 ⑤型**の男性からすれば、すごく“わずらわしく”なります。『助けてくれなくていい、ほっといてくれ』ねんそう念ずるようになるわけです。

このような意味で、A子さんにとって最もあいしょう相性のよい相手は**②型**の男性になるはずです。

☞ A子さんにとって、②型の男性が最良という判断ですが、そのつぎにAさんと相性がよいのは、どの型になるのかを考えますと、それは①型です。

②型のつぎに——彼女と相性がよいのは①型の男性です。



①型は、主星（僕）が配偶者（妻）を助けてあげたいのです。Aさんは〔夫を助けてあげたい〕とおもう女性です。つまり、お互いに相手を助けてあげたい同士です。

矢印の向きを見ると、一致していないようにおもえますが、

②型〔妻は夫を助けてあげたい〕
①型〔夫は妻を助けてあげたい〕 } このようになっています

この姿はお互いにおなじ『相生』です。

それゆえ「相手の気持ちを理解しやすい」といえます。

主星と第一命星（配偶者の場所）の関係を考えますと……

A子さんには②型が最もよいのですが、その次には

①型がよい（この箇所の^{あいしょう}相性はよい）と考えてください。

この箇所というのは、主星と第一命星の相性です。

③型 ④型 ⑤型とは相性が悪いです。

※ ③ ④ ⑤の順番で悪いという意味ではありません。

③型 ④型 ⑤型は〔主星と配偶者の関係〕が合わない

のです。Aさんは、③型 ④型 ⑤型との^{あいしょう}相性は悪いです。

参考：合う〔ものともものがつり合う。一方が他方にうまく重なる〕

☞ これらの関係については、つぎのように考えると、よいでしょう。（理解しやすい）

本人の〔主星の星〕と、配偶者の星が『^{そうしょう}相生』の場合は、相手も『相生』になっているほうがよいです。

つまり、本人の人体図で〔主星の星〕と〔配偶者の星〕が『相生』の場合は、相手側の人体図も〔主星の星〕

と〔配偶者の星〕が『相生』になっているほうが^{あいしょう}相性はよいです。

そして、本人の人体図で〔主星の星〕と〔配偶者の星〕が『相剋』^{そうこく}の場合は、相手側の人体図も〔主星の星〕と〔配偶者の星〕が『相剋』^{あいしょう}になっているほうが相性はよいです。

そして、本人の人体図で〔主星の星〕と〔配偶者の星〕が『比和』^{ひわ}の場合は、相手の人体図も〔主星の星〕と〔配偶者の星〕が『比和』^{あいしょう}になっているほうが相性はよいのです。

上記のように考えてください。

☞ 話しは替^かわります。 ➡

☞ 話しは替^かわります。

前にも「相^{あい}性^{しょう}の観^み方^{かた}（見^み方^{かた}）」は出てきました。

「それと」「今回は」別の話です。

もちろん、前（1回目）にやった相性の観方も必要です。

今回の観方も必要です。

つまり両方の観方が必要です。

そこで、前にでてきた〔例^{れい}〕を少しつかって、占いの練習をします。

人体図の十大主星に五行を付記しました。

* 浩宮・皇太子 1960(s35)-2-23

	石門星 ^木	天貴星
牽牛星 ^金	司祿星 ^土	鳳閣星 ^火
天極星	玉堂星 ^水	天報星

* 雅子妃殿下 1963(s38)-12-9

	牽牛星 ^金	天恍星
司祿星 ^土	牽牛星 ^金	玉堂星 ^水
天庫星	龍高星 ^水	天報星

* 秋篠宮 1965(s40)-11-30

	牽牛星 ^金	天祿星
司祿星 ^土	祿存星 ^土	龍高星 ^水
天報星	玉堂星 ^水	天馳星

* 紀子様 1966(s41)-9-11

	司祿星 ^土	天馳星
龍高星 ^水	龍高星 ^水	車騎星 ^金
天胡星	祿存星 ^土	天胡星

きんじょうてんのう

今上天皇〔その時々における在位中の天皇を意味する語〕

現在の年号は「令和」です。

令和時代の今上天皇は徳仁（なるひと）さまです。

令和の天皇陛下のお名前は徳仁さまです。

徳仁さまのご称号（幼名）は浩宮（ひろのみや）です。

令和の時代の皇后のお名前は雅子（まさこ）さまです。

秋篠宮（あきしののみや）さまのお名前は文仁（ふみひと）です。

ご称号（幼名）は礼宮（あやのみや）です。

妻は秋篠宮紀子（あきしののみやきこ）さまです。

まちがっていましたら、恐縮ですが訂正してください。

よろしく申し上げます。

📄 13 ページに記載の人体図をもと基に話し進めます。

参考：相性あいしょう〔相互の性格が合う。本来は陰陽五行説で人の生まれ年を、五行に

あて、木と火、火と土などは、その性しょうが合うとするもの〕

☞ 浩宮皇太子（徳仁^{なるひと}天皇）ご夫妻の相性^{あいしょう}からはじめます。

宿命（1）皇太子様

配偶者	主星
金 牽牛星 ←	土 司禄星

妻を助けて当たり前と思う男性

妻を助けたい

ご成婚したことで、雅子様の主星〔牽牛星〕は、浩宮様の人体図の妻座にすわります。

皇太子様の第一命星は〔牽牛星〕です。

真面目で家庭的な妻が合^あっています。

そのように人体図に書かれています。

雅子様の主星は〔牽牛星〕です。

宿命（2）雅子様

配偶者	主星
土 司禄星 →	金 牽牛星

夫に助けてほしいと思う女性

夫に助けられたい

ご結婚したことで、雅子様の主星〔牽牛星〕は浩宮様の第一命星（妻の場所）に座ることになります。

皇太子様の第一命星（妻座）に雅子様の主星〔牽牛星〕が座ります。

皇太子様の人体図で第一命星は、妻となった女性が座る場所ですから、ピッタリ一致します。

皇太子様と結婚すれば、雅子様にかぎらず、どのような宿命の女性でも、皇太子様の第一命星（妻の場所）に運勢上で座らせることになるります。

（このことは皇太子様だけの話ではなくて、どなたでもおなじです。前回も出てきました。）

皇太子様の第一命星に雅様様が座ります。

雅様様ご自身の人体図は、主星はもともと〔牽牛星〕ですから、雅様様にとって、皇太子様の人体図にある牽牛星の場所に座るのに適合しています。

それゆえ、座っても違和感がないのです。

ここの相性は【○】です。

参考・適合〔うまくあてはまること〕

雅子様ご自身が、皇太子様の第一命星に座ることは、違和感なくて心地こちよいのですが、これは逆も観ないといけないわけです。

つまり、皇太子様にとってはどうなのかです。

参考：心地〔心の状態。気持ち。自分の感じ。〕

雅子様の第一命星（夫となった人物が座る場所）に〔司禄星〕があります。

皇太子様の主星は〔司禄星〕です。

主星・司禄星の男性が、雅子様の夫座にある司禄星の場所に座るのですから、このところはピッタリ一致しています。

雅子様の配偶者の場所にある星と、皇太子様の主星がおなじで一致していますから {○} です。

{◎} にしてもよいほどです。

この場所だけでも、これほどピッタリと一致しているのは珍しいのです。

皇太子様の人体図は妻の場所に〔牽牛星〕があって、雅子様の主星が〔牽牛星〕です。その雅子様が皇太子様の第一命星〔牽牛星〕に座るのでピタリです。

それに加えて—— 雅子様の夫の場所には〔司禄星〕があつて、皇太子様の主星は〔司禄星〕です。

主星〔司禄星〕の人物が、妻の人体図の〔司禄星〕の場所に座ります。

お互いにピッタリ {○} の姿です。

あきしのみや
 ♪ 秋篠宮様ご夫妻はどうでしょう。

宿命（3）秋篠宮様

土 司禄星	禄存星	土

本来の人体図

宿命（4）紀子様

水 龍高星	龍高星	水

本来の人体図

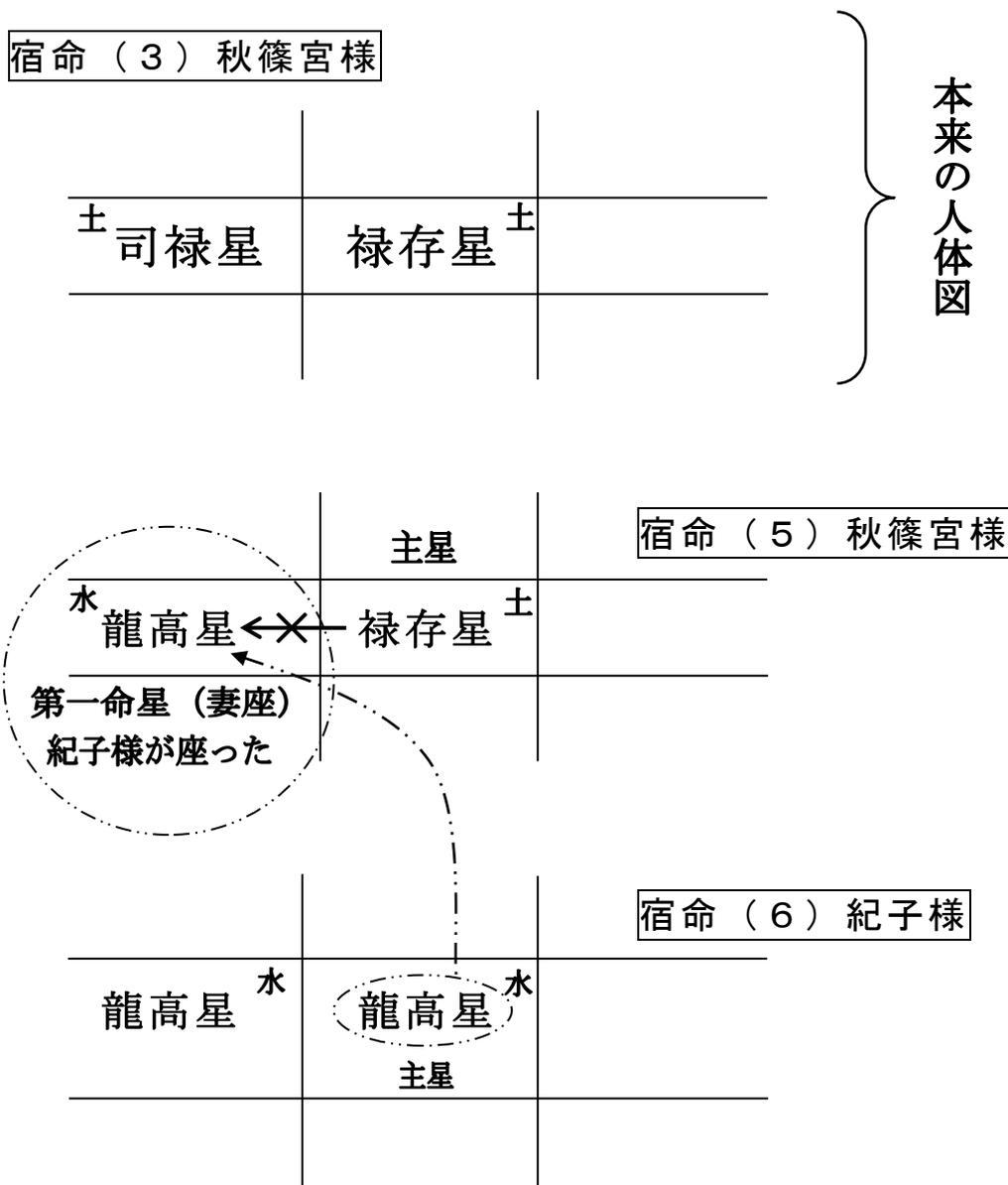
こちらのご夫妻もおなじ箇所をみます。

秋篠宮様の第一命星・妻の場所は〔司禄星〕です。

秋篠宮様の第一命星には、^{ごぎょうどせい}五行土性〔司禄星〕があります。

妻の紀子様の主星は^{ごぎょうすいせい}五行水性〔龍高星〕です。

妻の紀子様の主星は〔龍高星〕ですから、水性の妻が秋篠宮様の第一命星（妻が座る場所）に紀様が座ると
 (土^ど→×水^{すい}) 相剋^{そうこく}の関係になります。



本来の秋篠宮様の人体図は 宿命(3) 秋篠宮様 ですが、宿命(5) 秋篠宮様 をみると、秋篠宮様の主星(土性)が、第一命星に座った紀子様(水性)を相剋^{そうこく}しています。

この場所における『相剋』という意味合いというのは

〔土が水を堰き止めてしまう。水を土が汚す。〕

このように解釈しますので、お互いが反発して一致しません。この部分は【×】になります。

∞ このお二人の場合も、逆を見てください。

どの程度の相性^{あいしやう}なのかを観るわけです。

宿命（4）紀子様

水	龍高星	龍高星
		水

本来の人体図

	主星	宿命（7）秋篠宮様
土	司禄星	禄存星
		土

	主星	宿命（8）紀子様
土	禄存星	龍高星
		水

秋篠宮様が座る

本来の紀子様の人体図は **宿命（4）（6）紀子様** です。

それらの人体図を見ますと、紀子様の夫になる人物が座る場所には「龍高星」が載^のっています。

秋篠宮様の主星が（水性）なら1番よいのですが、秋篠宮様の主星は（土性）です。

主星「禄存星」の秋篠宮様が、紀子様の配偶者の場所にある「龍高星」のところに座ることになりますから **宿命（8）紀子様** の人体図で見ると（土→×水）で相剋になってしまいます。

お互いの質が一致していません。

宿命（7）秋篠宮様 ⇒ 紀子様の主星「龍高星」が、秋篠宮様の妻の場所（土性）に座りますから『相剋^{そうこく}』です。

宿命（8）紀子様 ⇒ 秋篠宮様の主星「禄存星」が、紀子様の夫の場所（水性）に座りますから『相剋^{そうこく}』です。

そうしますと、配偶者の星と相手の主星は、どちらから見ても一致しません。【×】です。

🔍 秋篠宮様の主星が、紀子様の夫座に座ってどうなのかを見ました。

🔍 紀子様の主星が、秋篠宮様の妻座に座ってどうなのかを見ました。このように両方から見るわけです。

秋篠宮ご夫妻の場合は、どちらも合っていないから {×} になります。

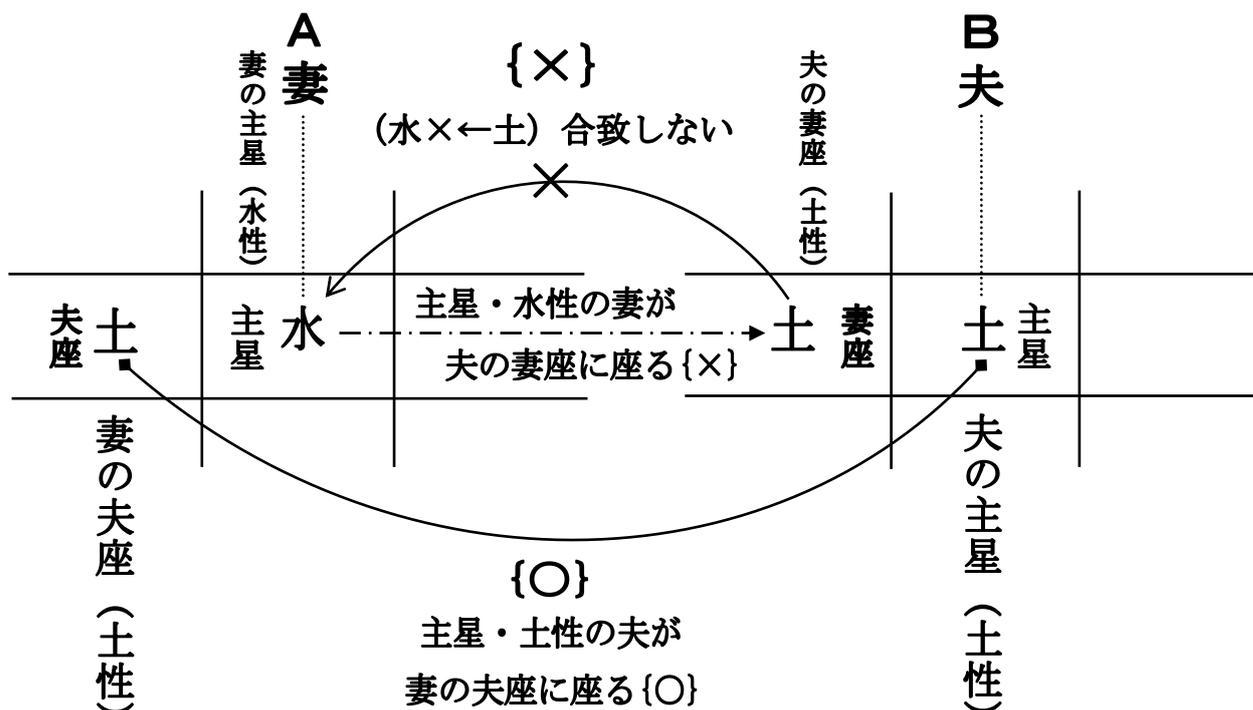
そうしますと、{○} と {×} を付けていくときには、一方は一致しているけど、片方は一致していない。という場合もあるわけです。

もし、そういう場合があれば、相対的に {△} くらいにします。

そこで——別につくります。 ➡

〔たとえば〕 宿命（9）A妻・B夫

妻の主星は（水性）で、夫の場所は（土性）です。{×}



夫の主星は（土性）で、妻の場所も（土性）です。{O}

主星（水性）のA妻が、B夫の妻座（土性）のところに座るのは {×} です。（水×←土）^{がっち}合致しません。

でも、逆から見ると合致します。

妻の配偶者の場所・夫座に（土性）があります。

主星（土性）のB夫が、A妻の夫座に座るのは {O} です。

(土性)の夫が、妻の(土性)の場所に座りますから、ここは合致します。参考：合致〔ぴったりあうこと〕

宿命(9) A妻・B夫の場合、片方は合致していませんが片方は合致しています。

こういう組み合わせもあるわけです。

A妻とB夫の場合は、合計して{ Δ }にしておいてください。

再度もうしあげます。

秋篠宮ご夫妻の場合はどちらも^{がち}合致していませんから{ \times }になります。

☞ 皇太子様と雅子様の話にもどります。

皇太子様の人体図には（土→金）と「自分が妻を助きたい」と書いてあります。

妻を助けたり、面倒をみたりしてあげたいわけです。

夫が妻を『相生^{そうしょう}』しています。

雅子様は、逆に（土→金）と「夫から助けてもらいたい」と書いてあります。

配偶者（夫）から面倒をみてもらいたいわけです。

皇太子様は（土→金）と雅子様の主星を生じています。

04頁に ①②③④⑤ と5つの型^{かた}を書きました。

その型に照らし合わせますと、①型の組み合わせになります。

宿命（1）皇太子様 **宿命（2）雅子様** を見てわかるように皇太子様は、主星〔司禄星〕ですから、（土→金）と〔牽牛星〕の妻を助きたいのです。

雅子様は、主星〔牽牛星〕ですから、（土→金）と〔司禄星〕の夫から助けてもらいたいのです。

このように書いてあるわけですから、この部分は2人の意見がピッタリ一致します。

皇太子ご夫妻の夫婦関係は相性^{あいしょう}がよいと書いてあります。

これは一致していますので {○} です。

主星と配偶者の星の「相生」「相剋」「比和」も {○}

主星と第一命星の「相生」「相剋」「比和」の関係を、主星の星と配偶者の星の『^{しょう}生・^{こく}剋・^ひ比』といいます。これも {○} になります。

主星と配偶者の星が『相生』なのか。

主星と配偶者の星が『相剋』になっているのか。

主星と配偶者の星が『比和』なのか。

お互いのあいだで、『相生』『相剋』『相剋』の関係が〔合致しているのか〕〔合致していないのか〕です。

☞ 再度——秋篠宮ご夫妻を見ます。



宿命（10）秋篠宮様 ご自分が〔禄存星・土性〕です。

妻座に〔司禄星・土性〕があります。

自分が土性で、妻も土性ですから、秋篠宮様が望んでいる夫婦の関係は『比和』がよいと書いてあります。

宿命（11）紀子様 の主星は〔龍高星〕で、夫座の星も

〔龍高星〕なので『比和』です。

ここは合致しています。

秋篠宮ご夫妻は、友達のような関係を求めています。

自分が配偶者と『比和』の人物は、相手の人も主星と配偶者の場所が『比和』になっていると、^{あいしょう}相性がよいわけです。

主星と配偶者の星の『生・剋・比』ここは{○}です。

秋篠宮ご夫妻は主星と配偶者の星の『生・剋・比』は{○}

☞【初年】42回目【身強・身中・身弱】20ページに練習問題がありました。

「身強」「身中」「身弱」は大切です。

占うときに見逃してはいけません。

☞ そこで「^{みきょう}身強・^{みちゅう}身中・^{みじゃく}身弱」を観ていきます ➡

✽ 浩宮・皇太子 1960(s35)-2-23

	石門星 ^木	天貴星
牽牛星 ^金	司祿星 ^土	鳳閣星 ^火
天極星	玉堂星 ^水	天報星

✽ 雅子妃殿下 1963(s38)-12-9

	牽牛星 ^金	天恍星
司祿星 ^土	牽牛星 ^金	玉堂星 ^水
天庫星	龍高星 ^水	天報星

✽ 秋篠宮 1965(s40)-11-30

	牽牛星 ^金	天祿星
司祿星 ^土	祿存星 ^土	龍高星 ^水
天報星	玉堂星 ^水	天馳星

✽ 紀子様 1966(s41)-9-11

	司祿星 ^土	天馳星
龍高星 ^水	龍高星 ^水	車騎星 ^金
天胡星	祿存星 ^土	天胡星

☞ 『^{みきょう}身強・^{みちゆう}身中・^{みじやく}身弱』を見ていきます。

皇太子様の『身強・身中・身弱』はどうでしょう。

＊ 浩宮・皇太子 1960(s35)-2-23

	石門星	天貴星
牽牛星	司禄星	鳳閣星
天極星	玉堂星	天報星

皇太子様の『十二大従星』は、『天貴星』『天報星』『天極星』です。

『天将星』『天禄星』『天南星』は身強の星です。

身強の星がどれか1つあれば、人体図は『身強』です。

人体図に身強の星がなければ『身中』か『身弱』です。

皇太子様は『天貴は中星』『天報は弱星』『天極は弱星』です。

強星はなくて、^{ちゆうせい}中星1つ、^{じやくせい}弱星2つで、弱星のほうが多いです。

皇太子様は『身弱』になります。

雅子様はどうでしょう。

＊ 雅子妃殿下 1963(s38)-12-9

	牽牛星	天恍星
司祿星	牽牛星	玉堂星
天庫星	龍高星 ^水	天報星

雅子様は【天恍星】 【天報星】 【天庫星】 です。

【天恍は中星】 【天報は弱星】 ——そして【天庫は中星】
 なのですが、中星のなかでは弱いほうの中星です。
 トータルすると、天庫星があるので『身弱』です。

雅子様の『十二大従星』⇒【天恍星】と【天庫星】は
ちゅうせい
 中星ですから、数のうえでは中星2個ですから、中星
 のほうが多い人体図なのですが、中星が2個ある場合
 で、そのなかに【天庫星 弱星に近い】が入っています。

【天印星】と【天庫星】は、中星のなかでは、弱星に
 近い星なので、この組み合わせの場合は『身弱』にな
 るわけです。雅子様は『身弱』です。

皇太子ご夫妻は、皇太子様も『身弱』、雅子様も『身弱』
ですから、身弱と身弱です。

お二人とも身弱なので『身強・身中・身弱』の相性は
{○} です。

身弱と身弱ですから {○} になります。

❖ 『身弱』は身弱と相性がよいわけです。

❖ 『身強』は身強と相性がよいわけです。

秋篠宮様の『身強・身中・身弱』はどうでしょう。

＊ 秋篠宮 1965(s40)-11-30

	牽牛星	天禄星
司禄星	禄存星	龍高星
天報星	玉堂星	天馳星

天禄星がありますら『身強』です。

【天将星】 【天禄星】 【天南星】 3つのうちで、1個あれば『身強』です。

秋篠宮様は『身強』です。

紀子様はどうでしょう？

＊ 紀子様 1966(s41)-9-11

	司禄星	天馳星
龍高星	龍高星	車騎星
天胡星	禄存星	天胡星

天馳星は弱星、天胡星が2つありますが弱星です。

これは『身弱』ですけど『^{さいみじやく}最身弱』になります。

弱・弱・弱と全部が弱星です。

お二人は『身強』と『身弱』の姿です。

身強と身弱 {×}

このお二人は『身強』と『身弱』の組み合わせですから、この部分は {×} です。

☞ ^{あいしょう}相性を観るときに、もう1つ大事な要点がありました。

「純と濁」です。

皇太子様の「純と濁」はどうでしょう。

皇太子様は第四命星にある〔石門星〕のみが、^{だくせい}濁星
〈濁の星〉で、ほかはすべて^{じゅんせい}純星〈純の星〉です。

人体図は^{じゅん}〈純〉です。

雅子様はどうでしょう。

第二命星の〔龍高星〕だけが濁星です。

ほかの4つは純星なので、人体図は〈純〉です。

つまり、お二人とも〈純〉です。

〈純〉と〈純〉なので、当然ここも{○}です。

純と純 {○}

🔍【初年】35回目【人体図純濁法】04 **純濁法** 基本的な質が記載
されています。

ご面倒でも確かめるとよいでしょう。

秋篠宮様の「純と濁」はどうでしょう。

第三命星〔龍高星〕だけが^{だくせい}濁星で、ほかの4星は^{じゅんせい}純星の人体図です。

秋篠宮様も純濁法では〈純〉です。

紀子様のほうは、〔龍高星〕〔龍高星〕〔車騎星〕これら3つは濁の星ですから、濁星のほうが多いわけです。

紀子様は〈濁〉です。

秋篠宮様は純なのに、紀子様は濁なので、純と濁ですから、純濁法の相性は【×】です。

純と濁 【×】

^{あいしょう}相性の観方は、このようにさまざまな部分を取り出して調べます。

^{そうごう}総合して、どの程度の^{あいしょう}相性なにかと考えるわけです。

☞ 上級生になりますと、「^{どういほう}同異法」という技法を学びます。

その技法では、^{あいしょう}相性の比率を詳しく観ることができます。

皇太子ご夫妻は、全部【○】ですから、お二人の相性^{あいしょう}はとてもよいです。

秋篠宮ご夫妻のほうは【○】が1個しかありません。
あと3つは【×】です。相性^{あいしょう}は悪いです。

☞「相性が悪いと結婚にはならない」とは決まっていますよ。男女間には好き嫌いの感情^{かいざい}が介在します。相性が悪くても、好きになるかも知れないわけです。

参考：介在〔両者のあいだにほかのものがはさまってあること〕

秋篠宮ご夫妻の相性がよい部分としては、主星と配偶者の星の『生・剋・比』だけが一致しています。
ここの相性^{あいしょう}だけは合致しています。

これは先ほども説明しましたように……秋篠宮様は「自分と妻は比和がいい」、そして紀子様も「私と夫は比和がいいわ」と、お互いともに『比和』になっている者同士なので、『比和』の部分では一致しています。
ここだけは【○】ということになります。

秋篠宮ご夫妻のように『比和』1箇所だけしか、相性^{あいしょう}が合致していないご夫婦の場合には、特にこの部分の相性が重要になります。

『比和』が“扇^{おうぎ}のかなめ”であり、お二人を結びつける絆^{きずな}といえる箇所になります。

このようなご夫婦の生活がスムーズにうまくいくためには、『比和』のところで説明しましたが、夫婦2人にとっての共通点、または共通の目的が必要になります。

2人にとって共通点、または共通の目的が必要。

それが夫婦として円滑にいくための“扇のかなめ”になります。

2人にとって共通点、共通の目的意識が必要です。

『比和』の関係は、自分と妻はおなじ・同等です。

このように言っていますが、競争相手でもあるのです。

『比和』の組み合わせで、結婚したご夫婦の場合は、

「私たち同級生です」とか「会社の同僚でした」とか、

「一時期おなじ環境で過ごしていたときに、付き合いを始めました」とお応えになる方が実際多いのです。

秋篠宮ご夫妻の場合は、学習院でおなじサークル活動をしていました。

のりのみや

紀宮様とご結婚した黒田さんも、秋篠宮様と紀子様とおなじ「自然文化研究会」に入っていました。

そのように、お二人にとって共通点があるわけです。

必ずとは言い切れませんが、そのような出会いの場合『比和』の関係は結ばれやすくなります。

紀宮様と結婚した黒田さんは、「自然文化研究会」での共通の友達でした。

紀宮様と黒田さんにとって、秋篠宮様ご夫妻は、共通の友達であり、義理の兄弟関係でもあるわけです。

紀宮様と黒田さんのご成婚に関して「秋篠宮様ご夫妻が縁談をまとめた」という共通の目的意識があったわけですから、『比和』のご夫妻にとっても、プラスになったといえます。

そして、結婚した^{あと}後も共通の目的が必要です。

共通の目的というのは、〔共通の友達〕とか〔共通の敵〕でも結構です。

⇒ 皇太子ご夫妻は、一時期・雅子様が病気でした。
当時の報道では、心身の不調「適応障害」という病名
とのことですが、環境に適応するのが難しく、それ
でストレスが溜まったとの報道でした。

コロナとかインフルエンザのようにウイルスに罹患^{りかん}し
て病気になったとかではないので、精神的な病気です。
一般的には、躁鬱^{そううつびょう}病みたいな状態だったそうです。

そうしますと、雅様の人体図を観て、病気の原因は
何だと想いますか……？

人体図を^み観ると原因がわかります。

今まで皆様が学んだ範囲でわかります。

「適応障害」……何に適応できなかつたでしょう。
雅様様の病気の原因は子供と考えています。
子供の星といえば〔鳳閣星〕〔調舒星〕です。
雅様様の人体図の特徴の1つは〔鳳閣星〕〔調舒星〕が
ないので。

* 雅子様 1963(s38)-12-9

宿命(12) 雅子様

	牽牛星 ^金	天恍星
司祿星 ^土	牽牛星 ^金	玉堂星 ^水
天庫星	龍高星 ^水	天報星

雅子様の人体図に子供の星〔鳳閣星〕〔調舒星〕はありません。

△〔鳳閣星〕〔調舒星〕は子供の星です。三分法を学んだときに、人体図に〔鳳閣星〕か〔調舒星〕のどちらかが1つある。または、子供の星がいくつもある人体図をもつ人は、子供との関わりが多くなります。そのような説明がありました。

人体図（陽占）と陰占では「子供の観方」は異なります。陰占で学びます。

子供の星が1つもない人体図は、子供縁^{こどもえん}が薄^{うす}いとか、子供との関わり合いが少ないとか、そのようになるはずです。

言い換えれば、人体図に〔鳳閣星〕または〔調舒星〕が無い人は〔子供縁が薄い〕から、子供との関わり合いが少ないほうが宿命に合っているわけです。

それが宿命どおりです。という意味になります。

☞ 人体図に〔鳳閣星〕〔調舒星〕が1つもない人は、
子供を産んではいけません。という意味ではないですよ。
そういうことではないですよ。

子供を産んでもよいし、育ててもよいのです。

ただし、子供のことを気に掛けないことです。

(子供に深く気持ちに向けない。子供に心をとらわれないこと。)

なぜなら〔子供との縁が薄い〕からです。

子供に自分の思いを入れないこと。

つまり〔このように育てようとか〕〔将来こうなって欲しいとか〕

そのような思い入れをして子供を育てないことです。

なにかに「縁が薄い」のであれば、その「なにか」に思い入れをしな

いことです。兄弟と縁が薄い宿命であれば、兄弟に対して〔縁が薄い

生き方〕をすれば宿命どおりです。薄情とはまったく違います。

参考：薄い〔物の密度や濃度が少ない〕

参考：薄情〔愛情に乏しいこと。思いやりの気持ちが少ないこと〕

参考：思い入れ〔思いをこめるさま。さきざきの見込みをつけること。〕

自分の人体図に子供の星がない場合は、子供に深く関
わるとか、子供のことを気に掛けないことです。

言い換えれば、子供を自分の思いどおりに育てようと

深く心にかけないことです。このことは ➡

このことは、女性も男性もまったくおなじです。

当時の報道によると、皇太子妃なので結婚以来、毎月のように宮内庁から問い合わせがあり「ご年齢はあまり、お若くはありませんので、跡継ぎをおつくりになっていただかなくては」と宮内庁から照会があったそうです。

「天皇家の跡継ぎを産ま^うなくては」という責任が生じます。

皇太子妃で跡継ぎを産まなくてはいけない



結婚して何年も子供ができない



やっと妊娠したけど、流産してしまった



妊娠しましたが女の子でした

これらの事柄をまとめますと、皇太子妃として跡継ぎを産まなければならない立場です。

最初からその役目が与えられています。

しかし、何年も子供ができませんでした。

やっと妊娠しましたが、流産してしまいました。
その後、子供を授かりましたけど、女の子でした。
女の子が生まれたら「男の子ができるまで外国に行くこと
はひかえてください」と宮内庁にいわれたそうです。

男の子が生まれるまで、外国に行っては行けない。

これが事実であったとしたら……。

人体図に〔鳳閣星〕〔調舒星〕のない男女にとっては、
まったく宿命に合わない環境だといえます。

〔鳳閣星・調舒星〕のない人は、子供のことにに関して
気をつかってはいけない、気にしてはいけないのです。
このような人体図の人には『お子さんはいつでもよい
のですよ』と行ってあげたほうが、子供ができるので
す。

『女の子でも男の子でも天の恵みです。天の采配にお
任せしましょう』と行ってあげたほうが授^{さず}かるのです。
それが彼女の宿命に即^{そく}した環境になります。
算命的に言えば、つぎのようになります。 ➡

〔鳳閣星・調舒星〕が1つもないのに、その環境下において〔子供のことばかりを気にかけて〕今月はできるだろうか、来月どうだろうか、出産の重圧を受けて、子供のことに神経を集中する状況に置かれてしまうと、ほかの人体図の星まで、生きてこなくなるのです。本来、子供の星がないのに、ないものねだりで、鬱病うつびょうにもなるといえます。星は生きています。

人体図に星がないわけですから、子供のことは一切気にせず、本来もっている星を生かし輝かがやかすほうが宿命は活いきてくるのです。

そのほうが自然と子供もできやすくなります。

そして、愛子様〔2001-12-1〕が誕生して、その後、2008-4-10 学習院初等科へ入学されました。

学習院には「親は同行しない」という原則に反して、愛子様いじめが心配ということで、付き添いべったりは宿命にも反した動きです。人体図に星がないわけですから、子供のことは一切気にしないことが、本来の子育ての姿です。しかし母としては難しいですね。

☞ つぎの考え方として……。

雅子様は〔鳳閣星・調舒星〕子供の星はないのですが、
子供の場所はどなたの人体図にも必ずあります。

子供の星がない人は、人体図の子供の場所・第二命星
をみます。

雅子様は子供の場所に〔龍高星〕があります。

宿命（13）雅子様

	牽牛星	天恍星
司祿星	牽牛星	玉堂星
天庫星	龍高星 第二命星	天報星

外国の星

雅子様は子供の場所に〔龍高星〕があります。

人体図に〔鳳閣星〕〔調舒星〕のない人で、子供が欲し
かったら、子供の場所にある星を活かすこと^いです。

人体図に子供の星がないのなら、子供のことで悩むよ
りも、〔龍高星〕の意味合いをつかうことです。

そうすることで、子供運が上がっていくのです。

龍高星には「外国の星」という意味があります。

雅子様の宿命に^{そく}即した発言は「お子様はできなくてもよろしいですから、外交で活躍なさってください」といわれると、宿命は“生き生き”して輝くのです。そうならば子供を授かるようになります。

ところが「男の子が出来るまで外国に行ってはいけません」ということだと、算命的には、この発言は“^{まぎやく}真逆”です。

宮内庁の発言が真実だとすれば、彼女の人体図を^{はかい}破壊するような話です。

結婚して何年も出来なくて、やっと授かれば女の子でした。

それに追い討ちをかけるように「男の子できるまでは、外国へ行ってはいけませんよ」と、いわれたとすれば、どの女性でも^{うつびょう}鬱病になってしまうでしょう。

⇒ 彼女の父親は外交官で各国（ロシア、スイス、アメリカ）に居住し、雅子様も一緒に生活していたわけです。

〔彼女は幼少期から龍高星を生かした生活をしていました〕
雅子様ご自身も外交官を目指して外務省に入省したわけです。

彼女の人体図の帰星は〔龍高星〕外国の星です。

〔帰星には人生の目的となる星という意味があります〕

外交はほかのどの皇族よりも、自分のほうが専門だという自負もあるはずです。

雅子様の人図を観て、子供・子供と宮内庁からいわれてきたことが「適応障害」の原因だと考えたときに、どうしたら病気が快方に向かうとおもいますか……？
日本の皇太子妃として、皇室外交で活躍するようになれば回復します。

雅子様は「皇室外交をささえる」という^{きがい}気概もあり、ご結婚の意思を固められてののかも知れません。

ご成婚にいたるまでには（6年半）、あしかけ7年という歳月をついやしています。

雅子様の主星はプライドの星〔牽牛星〕です。

これらの星を生かす^いことができれば、快方に向かうわけです。

実際にそうなれば、ご自身のプライドも満足します。

雅子様の人体図は皇室外交に極めて向いています。
おそらく皇室のなかに、このような人体図をもっている人物はいないでしょう。もったいないです。

〔40歳〕の頃はまだ期待できる年齢でしたから、跡継ぎの子供のことで大変だったでしょう。

〔50歳〕を過ぎれば、まわりもいわないでしょう。
気が楽になったと考えられます。

一般の家庭ではなく、日本の皇室を受け継ぐべき人物を産むのが役目です。

その重圧は^{すさ}凄まじかったと想像できます。
ノイローゼになりますよ。

⇒ 当時の平成天皇陛下も美智子皇后様も、まだできないのですかと……相当に気にされていたと想えます。

皇太子様の人体図は〔鳳閣星〕があります。

それゆえ、子供のことを気にしてもよいのです。

愛子様との関わりを深くするほうが皇太子様の人体図に合っています。

皇太子様は愛子様のことを心配しても、ご自身の気持ちを愛子様に向けても大丈夫です。

皇太子様の人体図に即しています。

でも、雅子様は気にし過ぎると駄目なのです。

ご夫婦でも、そこは違うわけです。

このことに関しては、子育てもおなじです。

☞ 雅子様「性格」の特徴はどうでしょう。

主星は〔牽牛星〕です。真面目です。

主星が牽牛星で、第四命星・親の場所にも牽牛星があります。二つあるのは牽牛星だけです。

『十二大従星』を含めても、おなじ星が2つあるのは牽牛星だけです。

宿命（14）雅子様

	牽牛星	天恍星
司祿星	牽牛星	玉堂星
天庫星	龍高星	天報星

主星の牽牛星は真面目な星です。名誉の星・仕事の星です。とてもプライドが高い星ですから、一生懸命に皇太子妃としての責務を果たそうとしてきたと考えられます。

雅子様にとっての牽牛星はプライドの星、仕事の星です。その星が〔龍高星〕知恵の星を生じています。

ハーバード在学中に論文で「優等賞」を受賞されています。

外務省に入省した雅子様は才媛^{さいえん}で、将来を期待される現役の外交官です。

雅子様は「外交官は一生の仕事」と位置づけておられました。

雅子様にとって、最大のプライドは外交官だったことではありませんか……。

外交官だったことは、雅子妃のプライド（^{ほこ}誇り）。

自尊心の星・仕事の星〔牽牛星〕2星が、〔龍高星〕という（知恵の星でもあり外国の星でもある）を生じています。

そのことからしても、才媛^{さいえん}の外交官として期待され、その道を歩まれてきた自分のキャリアを否定されたら、最もプライドが傷つくはずです。

プライドがとても高いので、プライドを傷つけられるのは、精神的痛手が大きいのです。

「外交官は一生の仕事です」「私は外交官です」という自尊心があるはずです。

彼女の人体図は、プライドを否定されると最も大きなダメージを受けます。

参考・才媛〔学問・才能のすぐれた女性。才女〕

しかも（土→金→水）と龍高星・玉堂星が帰星です。

ハーバードで「^{ブレインマサコ}頭脳雅子」と呼ばれ、プライドと頭脳で勝ち得た人物が、自分のキャリアまで否定されたのであれば、そうとうに精神は弱ってしまいます。

その彼女を皇太子様が（土→金）とささえて〔助けてくれたから〕〔護ってくれたから〕なんとかやりとげてこられたと考えられます。

皇太子様はご自分の感情を抑えながらのご様子でした。

「それはもう何年も前の過去に、雅子のキャリアや、そのことに^{もと}基づいた雅子の人格を否定するうごきがあった」というご発言は、皇太子様としては^{めずら}珍しいと思えます。

⇒ 「性格判断」をしますときに『主星は特徴』です。

さらに——雅子様の人図にある〔牽牛星〕のように^{どうせい}同星が複数あればそれも特徴です。

人図で特に目立つ部分に^{しょうてん}焦点を当てて観ます。

〔たとえば〕「どのような性格の特質をもっているのか」その要点をつかむことによって、人図を観やすくなります。

☞ 秋篠宮紀子様「性格」の特徴はどうでしょう。

主星は龍高星でおなじ星が2つあります。

宿命（15）紀子様

	司禄星	天馳星
龍高星	龍高星	車騎星
天胡星	禄存星	天胡星

〔龍高星〕は改革かいかくの星であり、外国の星です。

物事を改あらため変える気持**ち**が強い。

『十二大従星』は『天胡星』が2つあります。

十二大従星は『身強』なのか『身弱』なのか、そのことも大事ですが、人体図に3つ載る星の2つが同星ですから、そこも最大の特徴になります。

〔天胡星〕自己じこけんじよく顕示欲の強い星です。

自己顕示欲

紀子様は〔龍高星〕が主星で、第三命星も〔龍高星〕ですから、改革心がとても強いです。

そして、十二大従星は『天胡星』^{てんゆめせい}が2つありますから自己顕示欲も強いです。

龍高星は「外国の星」「知恵の星」の意味があります。なぜ「外国の星」という意味があるのかといえば、龍高星は改革の気持ちが強い星です。

物事を“改革する気持ちが強い”というのは、自分の生まれ育った環境にいつまでも居座るだけでは、改革にならないわけです。

自分が生まれ育った場所ではなくて、まったく知らない地、知らない場所、新しい世界……つまり自分の知らない世界、
〔たとえば〕外国へ行ったり、外国の仕事をしたりすれば、自分の生まれ育った環境から逸脱^{いつだつ}して、物事が改まり変わりますから、改革したことになるわけです。

〔龍高星〕は「離別放浪の星」とも呼ばれます。

もちろん、自分の生まれ育った環境を改革するのは、外国に行かなくても、改革できればよいです。

紀子様はどのような改革をしたのでしょうか……。

一般人が「皇室」へ嫁ぎました。

これほど大きな人生の改革はないですね。

過去には「美智子様」もそうです。

美智子様は生まれながらに皇室へ嫁ぐ「特殊な宿命」です。

紀子様とは大きく異なります。

紀様は皇室に嫁いでしまえば、自分の生まれ育った環境を——大きく改革したことになります。

なおかつ、相手が皇族の人物ですから、自己顕示欲も満足できます。

紀様の性格の二大特徴は「改革の気持ちが強くて」「自己顕示欲が強い」ところです。

紀様にとって秋篠宮様はピッタリです。

紀様の欲求を満たすには最高の男性です。

ご結婚される時「好きになった方がたまたま皇族の方」とおっしゃったそうです。秋篠宮様が皇族だから好きになったのです。紀様は皇族に惹かれたといえます。

紀様の人体図にそう書いてあるのです。

先ほど、秋篠宮ご夫妻の相性を観ましたが、お二人の相性は悪かったです。

紀さまは改革と自己顕示欲がとても強いです。

さて——これも古い事ですが、秋篠宮様が皇太子様のことを批判した記者会見がありました。

秋篠宮様のお隣に座していた紀子様はすごく嬉しそうでした。自己顕示欲が満足している姿です。

〔たとえば〕相手の男性がサラリーマンだとしたら、好きになったのでしょうか……？

秋篠宮様は皇族なので、おそらく紀子様のほうから、熱をあげて近づいたとおもわれます。

相手が皇族だということを、目当てに結婚したとしても悪いことではありません。人体図にはそのように書かれています。ということだけなのです。

〔よいとか〕〔悪いとか〕という意味は、何に対しても無いのです。その決まりは算命学にはないです。

ただ、相性^{あいしょう}が悪い相手を好きになって結婚するというのは、なにか特別な理由が存在しているのではと考えます。一般でいえば、相手がお金持ちとか、エリートコースに乗っている人物かも知れないですね。

♡ 皇太子様ご夫妻の相性^{あいしょう}はとてもよいです。

お互いの心^{こころ}にかなったのです。

雅子様が皇太子様を好きになった……それは皇太子様の人間性が雅子様の心^{こころ}にかなう人物だったのです。

皇太子様も雅子様が外交官だから好きになったわけではなくて、雅子様のお人柄に惹かれたのです。

参考・人間性〔人間としての生まれつきの性質。人間らしさ〕

参考・人柄〔感じられる性格。品性。人品〕

皇太子ご夫妻は、ご結婚するまでに何年もかかっています。お二人の交際が報道されてから、あしかけ7年近く経過してからのご成婚です。

皇室には、皇太子様と雅子様のご結婚に反対派もいたわけではあります。

ご成婚にいたる年月からしても、お二人のご結婚には、皇族と普通の平民ということだけではない障害が存在していたのではと考えられます。

〔たとえば〕これほど相性^{あいしょう}がよい場合には、二人ともが外交官で、二人とも外務省で知り合ったのであれば、出会いから長い期間をおかないで結婚するでしょう。

とても相性がよいのに、結婚まで期間がかかったという事は、さまざまな事柄がお二人のあいだに問題となっていたと想像できます。

相手が皇太子ということに、雅子様は惹^ひかれません。むしろ、結婚することを悩んだのでしょう。

皇族と結婚したら自分の人生は一変します。責任も重くなります。相手が皇族ということに……ためらいがあったとおもえるわけです。

実際に結婚したら、求められるのは世継ぎのことばかりで、外交の表舞台に立つことはできませんでした。

長いながい^{なが}辛抱^{しんぼう}でしたけど、やっと令和天皇の皇后として、表舞台に立てる環境になりました。

紀子様は、相手が皇族なので惹^ひかれたのです。宿命は改革者ですから、相手が皇族だからといっても、それは障害にもならない。とご本人は考えるわけです。

【初年】50回目【人体図の観方②】 終わります

つぎの授業 ⇒ 【初年】51回目【運勢論】です。